



Weekly Report

国際ロータリー第2750地区 **東京多摩グリーンロータリークラブ**

1991~1992年度クラブ目標 **“親睦と奉仕の流れを創ろう”**

第49回例会報告 (10/23)

特別代表 由井 重光
司会 SAA 杉田 誠

☆点 鐘

☆ロータリーソング 「日も星も風も」

ソングリーダー 菊池 敏

☆お客様紹介 会長 田中 實

小瀬田 弘様 (大津西RC)

高橋 修様 (多摩RC: 卓話講師)

石塚 文夫様 (多摩RC: 直前会長)

野沢麻衣子様 (当クラブ派遣学生)

☆会長報告 会長 田中 實



国際ロータリー第2750地区規定審議会代表議員黒沢張三さんから、92年の規定審議会提出議案についてお手紙が来ております。現在予定されている総議案数は 266件であり、日本からも4件が提出されることになっております。提案内容としては、クラブ運営4件、

会員40件、出席28件、クラブ例会3件、ロータリー綱領7件、地区運営48件、その他国際ロータリー、ロータリー財団、RI定款・細則に関する議案等々多数に互っております。

特に、提出が予定されている議決23-34に関する事項については、議決23-34の原文を残し、それに新たに10項目の新声明を付け加える決議案が提出される模様です。

☆幹事報告 幹事 宮本 誠



① 10/26(土) 出席のメイクアップ取扱いについて炉辺会合を開催いたしました。問題の発端は5クラブまたは9クラブのゴルフコンペのメイクアップ取扱いの是非であり、その後野球大会等同好会の取扱いについても同様の問題が考えられ、理事会はこれらについて一切メイクアップを認めないことで決議を致しましたが、当クラブがこれらの行事を主催した際の取扱い等について一部に疑問視する声もあり、炉辺会合にて意

志統一を図りました。

従って、地区が主催する行事については別として、定款の定めるところに従って原則を遵守することに致します。当クラブが主催する場合、他クラブの参加者はメイクアップカードなど無しでも自己申告により出席とみなされる第7条第2節の規定があり、特に障害はないと考えられます。スポンサークラブも同様の方針であり、また、その指導に従うことが妥当と考えます。

- ② 11/6(水)の職業奉仕委員会における企業訪問は、同日、地区青少年交換委員会から派遣の来日交換学生の卓話がありますので、例会終了後実施することに変更致します。

~~~~~

### 石坂文夫様黄授褒章授賞ご挨拶

〔紹介のこぼ〕

会 長 田 中 實

先般、石坂様が黄授褒章授賞記念祝賀会を盛大に挙行され、当クラブからも会長、幹事ほか数名が参加いたしました。石坂様はこれまでに紺授褒章、都知事表彰、建設大臣表彰を受けておられ、今回更に黄授褒章をうけられました。昨年、当クラブ創立に当たっては大変お世話になり、我々としてもこの上ない喜びでございます。改めて拍手をもつてお迎えしたいと存じます。

〔石坂様のご挨拶〕



祝賀会が当クラブ例会日に当り大変ご迷惑をお掛けいたしました。それにも拘わらず、会長・幹事ほかの方々のご列席を頂き、盛大に執り行うことが出来ました。心から厚くお礼申し上げますとともに、今後ともよろしくご願い申し上げます。

## ☆委員会報告

### ★出席委員会

〔出席報告〕

橋本 幸夫

|      | 総数 | 出席 | MU | 欠席 | 出席率    |
|------|----|----|----|----|--------|
| 本日報告 | 42 | 35 | 3  | 4  | 90.48% |
| 前回訂正 | 42 | 30 | 5  | 7  | 83.33% |

〔本日の事前メイクアップ〕

萩生田茂夫 (10/21 ロータリー財団委員長会議)

北村 幸彦 (10/22 多摩RC)

吉原警太郎 (10/22 多摩RC)

〔先週のメイクアップ〕

遠藤 二郎 (10/22 多摩RC)

小城 章員 (10/16 地区社会奉仕委員長会議)

増川 徹 (10/22 多摩RC)

中山 恒武 (10/22 多摩RC)

津守 弘範 (10/22 多摩RC)

〔本日の欠席届者〕

小島周二郎、新海源司朗

〔欠席〕

吉原光太郎、小坂 一郎

※ 次回の夜間例会 (10/30)は100%出席をお願いします。

## ★親睦委員会

奥木 博勝

### ニコニコBOX

石坂 文夫様 10月2日の黄授褒章授賞祝賀会には、例会日にもかかわらず大勢の方々のご臨席を賜り有難うございました。お陰様で無事終了致しました。

大熊 将夫 高橋先生の卓話が楽しみです。

津守 弘範 2回程欠席しまして。

遠藤 二郎 清々しい秋晴れに!! 外仕事が捗ります。

海野 栄一 高橋さんを卓話にお迎えして。

赤尾 恭雄 スポンサークラブから卓話に高橋先生をお迎えし、また石坂直前会長をお迎えして。

宮本 誠 雨の穂高のゴルフも悪くはなかったですヨ。ヤセガマン!

横倉 舜三 ご無沙汰いたしました。

橋本 幸夫 宮本幹事、先日は大変ご馳走様

になりました。

城倉 正博 天気が続くといいですね。  
伊神 稔 天気もよく・・・。  
中山 恒武 久しぶりに皆様にお逢いします。  
松原 健 1年前の花水木が大きく成長したので。

以上合計 33,000円

## 同好会結成

城倉 正博

詳細は配布資料の通りですが、各同好会の会長を次の方々をお願い致します。

ゴルフ：伊神 稔 テニス：大松 誠二  
野球：小城 章員 釣り：中山 恒武  
スキー：吉沢 洋景 囲碁：奥田 文夫  
麻雀：菊池 徹 写真：佐伯 和廣  
旅行：隅 耕造

## 【卓話】 「職業奉仕とは」

高橋 修 先生



### 1. 他の奉仕クラブとの本質的な違い

RCはサービス哲学を持っていますが、他のサービスクラブは、これを持っていません。ここが本質的な違いです。

RCの哲学は、利己心と利他心を調和させる人生の哲学です。(23-34 決議)。アメリカの学者は、これを人類文化史上稀にみる町人文化の華と評価しています。

### 2. 一言で言って、職業奉仕とは

いろいろの人がいろいろのことを言っています。次の通りです。

\*職業奉仕とは、自分の職業に対して誇りを持ち、仕事を正しく立派にしようと云う奉仕です。

\*職業奉仕とは、生活の資を得る方法を、人

生を生きる方法に変えるものです。

\*職業奉仕とは、専門職業や、実業、商業、工業などにおける生活環境を向上させていくことです。

\*職業奉仕とは、自分の職業を天職と心得、職業の相手方を心の友と思い、個々の取引に直接、間接に利害関係を持つ物を幸福にすることです。

\*職業奉仕とは、その職業において成功することです。但し、その成功は永続性のあるものであり、身近な物が共に喜び合えるものであるべきです。(元RC会長ホジス氏)。

### 3. 理解困難も当然か

職業奉仕は分かり難いとよく言われます。ロータリーの定款を見て下さい。第3条の綱領(ロータリーの目的)の中心というよりも、綱領そのもの・ロータリーの哲学そのものが職業奉仕なのですから、入会早々の人に分からなくとも当然と言えましょうか? 本日、僅か30分の話で、全員の方に職業奉仕を分からせようとしても無理な話で、今後、ご自分で研究されていく際の多少の手かかりを得て下されば幸と思います。

### 4. なぜ理解困難か

世の中の多くの方は、職業というものは生活の資を得る手段、つまり利己心を満足させる手段だと考えており、また商売というものは金儲けの手段、つまり打算の世界のことだと考えています。これが常識というものでしょう。

ところがロータリーでは、この職業なり商売なりを、他人に奉仕する手段、打算を超越した愛情の世界のものにしようとするわけですから、初めての人には理解し難いのだと思います。発想の転換をしないと、なかなか理解出来ないという次第です。

また、日本人が Service を奉仕と訳していることも、理解困難の原因とされています。Service という語は、人間同志の横の関係で他人に役立つこと、広く社会の為に平等に役立つこと、を意味します。

ところが、奉仕とは、神様や主君に仕え奉ることです。上下の関係で私を捨てて上に盡

くすことを意味します。

「超我の奉仕」などと訳されると、自分を全く犠牲にしてしまうことのように思われますが、“Service Above Self”という英文の正しい意味は、「自己研鑽の奉仕」であり、自分（利己）と相手（利他）とを調和させることだそうです。正当な利益を得ることを認めています。

### 5. 理解を得る手がかりとして

利己心と利他心を調和させる人生の哲学は、ロータリー以外の世界でも認められています。職業奉仕の理解の手がかりとして、二宮尊徳の紹介をします。原文は、大阪RCのバストガバナー塚本義隆さんの講演筆記文から借用しました。

#### 【水車が訓える中庸の道】

尊徳が書いた二宮翁夜話に、水車の話が出て来ます。水車は回転しますネ。これで尊徳は、回転或いは循環と云う事を教えるのです。植物は種から芽が出て成長する、花を開き実を結んで再び種に戻る。これが即ち自然の力による循環回転である。その回転の話に、水車の例が出て参ります。今日では水車はちょっと見かけられないようになりましたが、昔は百姓さんの家のなくてはならぬ動力でありました。水車は元來回転するものでありますが、人間の道はこの水車のようなものと尊徳は説いております。即ち、水車の半分は水の流れに従うが、他の半分は流れに逆らって回転する。若し水車がまるまる水に浸ってしまえば回らなくなって流されてしまおう。逆にまるまる水から離れば回る事が出来なんでしょう。

仏教には高徳の坊さん、善知識と云う偉い方々が多いが、これらの人達が世俗を捨て欲を離れるのは、ちょうど水車が水を離れるようなもの、また、一方で凡俗の輩が道に全く耳を貸さず、人間の務めを辨えず、私欲一途

に執着するのはちょうど水車がまるまる水中に沈んでしまったようなものである。どちらも社会の用をなさない。それ故、人の道は中庸を尚ぶのである。中庸とは、宜しい程に半分は水の中で水に従って廻り、半分は逆らって回るように出来ている。そしてとどまる処を知らぬのである。人道もこれと同じで、天理に従うて種を蒔き、天理に逆らうて草を取る。欲に従うて仕事に励み、欲を押さえて世間の仁義を果たすべきである。

（二宮翁夜話第三節）

#### 【押し湯と利他の訓え】

更にこうも教えました。お湯に入った尊徳は、お湯を両手で己の方にかき寄せ、湯は己の方にくるように見えるけれど、すぐに向う側へ戻ってしまう。反対に向うへ押しやれば、やがて我が方に流れて返る。少し押せば少し戻り、強く押せば沢山返ってくる。これが天理と云うものである。昔の教えに、仁義と云うのがあるが、これはお湯を向うへ押しやる姿をさすのである。わが方へ掻き寄せるのは不仁不義の姿である。

人間の体の組みたてを視なさい。わが方へ掻き取れるとともに、向うへ押しやる事も出来る。これが人道の常理である。禽獣の手はそうは出来ていない。わが方へ取込むだけしか出来ない。だから人間たるものは、先方へも手を向け、他人の為に押しやる事を忘れては人間ではなく禽獣である。それでは何とも恥ずかしい事ではないか。ただ恥ずかしい事だけではすまない。天理にそむくから遂には滅んでしまうだろう。我れ常に奪うのは益がない。譲る方に益がある。よくよく吟味せよ。

（二宮翁夜話第三十八節）

この押し湯の訓えはロータリーのモットーであり—— He Profits Most Serves Best ——最もよくサービスするものに最大の利得あり——と同じ意味であります。



## 東京多摩グリーンロータリークラブ

会長：田中 貴 副委員長：美田文夫、委員：赤尾恭雄  
幹事：宮本 誠 選務：津守弘範、橋口英三  
会務委員長：定立 満三郎

事務局：東京都多摩市落合547  
多摩センタービル7F

TEL 0423(72)6463/FAX 0423(72)6491

※例会場：多摩センタービル7F サブライオンセンター1F

※例会日 毎週水曜日12:30 月の最終例会18:30